

「まん延防止措置はそもそも必要だったのか？
報道に振り回されずしっかりと検証する」

令和4年3月29日

● サツマイモさんからの質問

経済ジャーナリストの須田慎一郎氏は、虎ノ門ニュースで18日、「まん延防止措置の全面解除についてまん延防止措置はそもそも必要だったのだろうかと思うのが、まん延防止措置は飲食店の規制や営業時間の規制だけです。飲食店は感染拡大の中心にはなっていません。いつまでそんな事をやる必要があるのか？または、やる必要があったのかと言える段階なんだろうなと思います。」と述べられておられました。西田先生はどのように思いますか？

● 西田昌司の答え

コロナは飛沫やエアロゾルによって感染しますので、コロナが出始めて重症化率・致死率が高かった頃はなるべく人と接しない方向に誘導するのは仕方なかった面があります。しかし、オミクロン株ともなると（感染力は高いものの）重症化率・致死率は以前と比べてかなり低いですし、まん延防止措置が正しかったかどうかの検証が必要です。

私の地元の京都で現場の声を聞いたところ、オミクロン株の重症者の大半はお年寄りであり、病院や施設に入っておられて人生の終末期にさしかかっている方々です。そのような方が亡くなられて、調べてみたらオミクロン株に感染していたことが判明したために、オミクロン株による死者にカウントされているのが実態です。オミクロン株が直接の死因のケースはかなり少ないと思われまして、たとえ感染したとしても軽症あるいは無症状の方が非常に多いのです。

確かにまん延防止措置によって感染は抑えられるものの、経済が低迷し、人々の交流を妨げて人々の精神状態も悪くなります。かなりのことが明らかになってきた今、まん延防止措置のメリットとデメリットを冷静に比較して次に活かさなければなりません。

ところが、日本人は済んでしまったことは忘れてしまっいて経験から学ぶことをしませんし、一時の情報に右往左往して大騒ぎする悲しい習性があります。

この数年のコロナ騒動が一体何だったのか、もう一度冷静に考え直さなければなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>